



株式会社ジーンテクノサイエンス

2020年3月期 第2四半期 決算関連 - Q&A

ご質問	回答
<p>GBS-007(ラニビズマブ)は今後売上が期待されていると思うが、予定通り進んでいるか？</p>	<p>予定通り、来年9月に製造販売承認申請、2021年9月に承認取得で進捗しています。</p>
<p>ルセンティス・アイリーア・双方の市場を見た場合、GBS-007の国内の売上高をどう見ているか？</p>	<p>日本ではルセンティス・アイリーア併せて約850億円の市場規模となっており、仮にバイオシミラーの薬価を先行品薬価の7割、かつ両製品からバイオシミラーに100%が置き換わるとした場合、約850億円 × 0.7 = 約600億円というのがバイオシミラーの市場規模となります。現在、両製品で約80万本が販売されていますが、本数ベースではまだまだ増加しています。この市場の何万本を取り込めるかというところかと認識しています。最近のバイオシミラー市場はバイオセიმという動きもあり、未だ不透明感はあるものの、現在、開発・販売パートナーである千寿製薬と供給量等含め協議を継続しています。</p>
<p>GBS-007の海外展開について、市場の大きい欧米、その他海外での展開は？</p>	<p>まず中国市場に向けて1件導出が完了しました。眼科領域は大きな製薬会社が少なく、ローカルプレーヤーが多い領域です。こういった企業と幾つか話があり、現在活動を推進しています。</p>

ご質問	回答
<p>「新規バイオシミラーの導出」とは、どのパイプラインか？</p>	<p>現在当社が幾つか細胞株を作成している中で、パイプラインに載せていないものがあります。この内、新たに1-2件導出が出来ないか検討を進めています。</p>
<p>抗 RAMP2 抗体の導出について、直近の状況はどうなっているのか？</p>	<p>RAMP2は低酸素状態でより誘導されるタンパクです。そのため、一般的な実験系では検証が非常に難しいです。現在新しい系を組んで取り組みを進めており、その中で有用なデータを創出し、製薬会社と交渉を進めてまいります。</p>
<p>セルテクノロジーが当社の子会社となる以前から提携をしている、第一三共、イーザイ、積水化学の案件はどうなっているのか？</p>	<p>現在社外に公表しているパイプラインは、当社が主導で進めているプロジェクトに整理しています。第一三共、イーザイ、積水化学はそれぞれ先方内で研究開発を進められており、当社は細胞を提供しているという状況です。現在の開発状況については先方主導のため、開示を控えさせて頂いていますが、第一三共は中枢神経疾患領域、イーザイは神経変性疾患領域での研究を進めています。</p>

ご質問	回答
<p>間葉系幹細胞は均一性の問題、培養工程時の形質変化等があると指摘されているが、歯髄幹細胞の性質、間葉系幹細胞との違いは？</p>	<p>一般的に幹細胞といえども、継代していく過程で変質しますが、歯髄幹細胞、特に乳歯から取り出した歯髄幹細胞は培養過程において大きく変化しないという特長が見出されています。また、歯髄幹細胞のソースである歯は非常に集めやすいため、例えば良い歯・悪い歯と個体差があった場合に、より良い歯を選択が可能です。元々ばらつきが小さい幹細胞であること、ソースが豊富で良い歯を選択出来るという点で、ばらつきを更に小さく出来るものと考えています。</p>

株式会社ジーンテクノサイエンス



バイオで価値を創造するエンジニアリングカンパニー